

### 会 報 第112 号《印刷は1P.4Pカラー》

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

# ☆エゾ/スの会 里山プロジェクト案内板がまもなく設置されます!



この案内板はよつ葉乳業株式会社創立50周年記念事業寄付金を活用させていただきました。

# 2017年、エゾリスの会ではこんなことやります!

# FGF 富士フィルムグリーンファンド助成 未来のための森づくり事業 帯広の森 里山づくりマスタープランができました。

#### マスタープランって何?

エゾリスの会が帯広の森の里山づくりの活動を行っているエリアで実施しようとする4ヵ年計画での道筋をまとめたものです。

#### 何を実施する予定なの?

大きくは3つのことを行います。一つ目はオオアワダチソウ群落地の表土を剥ぎ、在来植生を目指す試み。二つ目は隣接する残存自然林からの在来植生再生のモニタリングとその手法の検討実施及び評価。三つ目は観察小屋の移設および活動拠点の整備です。そのほか、得られた成果や市民参加普及をにらんだ情報発信手法の検討などを計画しています。

#### エゾリスの会の活動はどうなるの?

これまでと同様にエゾリスの生息調査やモニタリング 1000 の調査活動も並行して行っていきます。ただし、すべてをやろうとすると労力に限界もあるので、部分的に専門家に外注に出したりすることも考えています。未永く活動を継続するには無理は禁物。楽しむことも忘れない活動を目指します。



表土を剥いだら水たまりができるかも?



小屋をリニューアル。作業もはかどる?

#### 活動拠点の小屋はどんな活用をするの?

今ある観察小屋を移設しますが、一部補修するのに加え、巣箱を設置してその観察窓を備え付ける予定でいます。繁殖期にはそこで営巣する野鳥が観察できるかもしれませんし、モモンガなどの小動物も利用するかもしれません。また、今まではトイレが遠く、用を足すには作業を中断せざるを得ませんでしたが、簡易的なトイレの設置も検討しています。森づくりの作業拠点として、観察の基地として様々なアイディアを盛り込んで活動しやすいものにしていければと考えています。

#### オオアワダチソウの繁茂を減らすことはできるのか?

これは、正直やってみなければ分かりません。ただ今までの里山プロジェクトの活動から根の部分から表土を剥ぐことで、繁茂を抑える成果を得ています。さらに掘削により一部湿性環境にすることや、自生種の種苗を導入するなど実験的に行うことで効果的な方法を見つけ出すことができるものと考えています。

#### 自然林に近い植生になっていくのか?

時間はかかるかもしれませんが、これまで同様適切な管理を継続することで、自然林に近づけていくことは可能と考えています。その一方で、キチンとしたモニタリングを行わないとどのように自然植生が再生し

ていくのかを検証することができません。またその方法についても専門家ではない市民でも行えるような手法を用いることが、長期間のモニタリングを可能にし、森林環境を維持していくのに不可欠な要素であると考えています。

### 世代を超えて、受け継がれる森を目指して!

今回のマスタープランはこれからのエゾリスの会での里山づくりの一つの転換点になるものと考えています。今までの活動の成果をもとに市民団体としてできることは何か?どんな森に近づけていきたいのか? 会員相互で様々な意見を出し合いました。そしてこれからも多くの市民との関わりを大事にしながら、世代を超えて受け継がれる森を目指していけたらと思っています。もちろん楽しむことも忘れません。本来、森で活動することは楽しいものなのですから。

# 餌付けについて考えた。~とかち環境交流会に出展して~

## エゾスの会会員 橘 豊

11月23日、帯広市とかちプラザで開催された『とかち環境交流会2016』に出展しました。エゾリスの会の出展テーマは『野生動物と人間の共生』『エゾリスの餌付け』です。展示ブースに来られた市民の皆様から『いいね!』を沢山頂いたように思います。

一方、帯広市内の緑ヶ丘公園ではエゾリスに給餌する市民が後を絶ちません。会場の皆様から伺ったところ、エゾリスへの餌付行為は近隣の町でも常態化しているそうです。エゾリスがヒトに近寄ってきて、おねだりのポーズをすると、たまらなく愛らしいと言います。しかし、見方を変えると『エゾリスの警戒心が低下している』『エゾリスの防御機能が低下している』とも言えるのです。結果、エゾリスが野良猫に狩られる事態が発生しています。ヒトは自分たちの都合で給餌し、野生動物をペットのように扱う傾向があります。給餌行為は『ヒトと野生動物の共生』を阻害する迷惑行為です。

一方で『丹頂』に給餌を行っているエリアがあります。このケースは『丹頂の絶滅』を回避する唯一の手段がヒトによる給餌で、容認される行為だと言われています。では丹頂の生息数が回復したらどうなるのでしょうか、疑問に思う方も多いはずです。現場で丹頂をフォローアップする研究者が『絶滅の危機は脱した』と判断したとき、段階的に給餌を縮小するそうです。つまり給餌をする行為は、給餌の撤退と一体化したプログラムになっています。

他方、無計画に給餌をした結果、給餌行為が規制される事例もあります。それは『白鳥』。餌付けされた白鳥はヒトの周りに押し寄せるそうです。白鳥は大群で畑に押し寄せ、冬を越したばかりの麦の芽を食べてしまいます。人を怖がらないので、負う手間がえらくかかるようになったと立腹されています。『ヒトと野生動物の共生』は究極の姿ですが、現実は『ヒトの都合』と『野生動物の事情』が交錯し目処は立っていません。ヒトができることは『ヒトの都合』を悔い改めることに尽きるようです。

結びに『とかち環境交流会 2016』は環境問題に全く知見のない私にとって、学びの機会となりました。 展示会準備に奔走していただいたエゾリスの会の皆様、並びに忌憚のないご意見を下さった市民の方々に厚く御礼申し上げます。

## 間伐に思う、森づくり

### 坂 村 堅 二

冬の雪深い季節。エゾリスの会の中心的な活動は 間伐だ。スノーシューを履き、ノコギリやチェンソ ーを持って森の中へ分け入る。

将来的にどんな森になって欲しいか、木の成長を考えながら切り倒す木を選ぶ。林業を営んでいるわけではないので、木材としての価値とかではなく、あくまでも森を構成するバランスを考えての選択だ。

労力は限られるので、最小限の力で最大限の効果を考える。間伐はとても重労働なのだ。木を倒す方向を決めて、刃を入れる。切られる木が今まで森を担ってきたものを考える。世の中に無駄な命などひとつもありはしない。切り倒すことによって一つの命は消えるが、また別の命が育まれる。

そして切られた木も木材として人の命を支える薪となり人の体と心を暖めてくれる。冬の厳しい季節を乗り越えるのに人は古くから木を利用していた。

森づくりとは何かと考えたとき、究極無数の命を 受け継いでいく営みであると思う。文明の利器に囲 まれた生活では感じられない営みが森には息づいて いる。













by キーポンサンシャイン83号

# エルスの会 会報 112号 発記:20173.26

発行 エゾリスの会(事務局)

〒080-0027 帯広市西 17条南 3 丁目 6-14

**☎**0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp
ホームページ http://ezori3.wix.com/ezori
非公式プログ http://d.hatena.ne.jp/noken/

#### 編集後記

自然の営みの時間スケールからすれば、人の寿命など一瞬の出来事だ。帯広の森で行っている我々の活動など些細なことに違いない。しかし現在と未来をつなぎ、森を支え伝えていくことの礎が築かれていくのならば、それは偉大なことだと思う。2017年、今年はエゾリスの会の活動にとって一つの転機になる年になるような気がしている。誇大妄想かな?(さか)



### 会 報 第113 号《印刷は1P.4Pカラー》

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

# ☆うっちーさんのエゾノス観察ルポの怖がいと煙は高いところに登る!



# ☆2017年度エゾノスの会事業計画です。~皆さん参加してくださいね~



# うっちーさんのエゾノス観察ルポタ

# 怖がりと煙は高いところに登る~エルスの警戒心を測る新しい指標の開発~

※このコーナーではエゾノスの生態研究を行っている北大生、内田健太さんから届いた 旬な情報(研究や観察で考えたことなど)を連載しています。

### 怖がりなリスほど高いところまで逃げる

今回のコラムでは、最近哺乳類学の国際雑誌 Mammal studyに掲載されました私の研究論文の一つ を紹介します。

内容を一言で言うと、リスが逃げる時にどの高さまで逃げたかが個体の警戒心の程度を反映することを明らかにした研究です。例えば、怖がりなリスほど高いところまで逃げるのです。

#### 地面にいる個体を対象とする今までの指標

してきました。その方法はご存知のように、地面でエサを探しているリスに近づいて逃げた瞬間の私とリスの距離から警戒心を評価してきました(逃避開始距離: Flight initiation distance)。この方法は行動学分野において非常に一般的で様々な生物で使われてきました。しかし、"地面"にいる個体を対象とするため、下草の多い森林などでは使えないデメリットがありました。私の郊外の調査では、下草や倒木が多いため物理的にリスの警戒心を測れないこともしばしばあります。

私はこれまで、生物の警戒心を測り都市と郊外で比較



#### ある高さまで逃げたらこちらを伺う行動に気がつく

これに対して、調査を進めていくうちにリスが逃げる際に木に登りある程度の高さまで逃げたら一度止まってこちらを伺う行動に気がつきました。逃げる高さが警戒心を反映するならば、森林でも警戒心を測ることができるようになります。そこで、従来の方法(逃避開始距離)と今回見つけた"逃げるのを止める高さ"との関係性を調べてみたところ、強く相関することが分かりました。地面での逃げ出す距離が長い(近づける距離が長い)リスほど、逃げるのを止める高さが高いこと(高くまで登る)が示されたのです。

#### 垂直逃避距離を新しい指標に

そこで、今後この高さがリスや鳥などの樹を使って逃げる生物の警戒心を測る新たな指標となることを提案しました(垂直逃避距離: Vertical escape distance と命名)。とにかくフィールドに出て、たくさんのリスを観察してきたことが今回の発見に繋がりました。今後も、フィールドベースの研究で生物の興味深い生態を発見し、その謎を解き明かしていきたいです。

論文: Uchida et al. 2017. Escaping height in a tree represents a useful indicator of fearfulness in an arboreal squirrel. *Mammal Study*, 42(1): 39-43.

# エゾノスの会 2017 年度事業計画です。 ~ 皆さん参加してくださいね~

- 1.自然と触れ合う事業
  - a)自 然 観 察 会 等 2回開催

第1回「帯広の森の川を歩こう」

と き:2017年6月25日(日)9:00~12:00 ところ:第2柏林台川周辺

第2回「FGF観察小屋移設観察会」 とき:未定

ところ:里山活動地

b) 動植物を考える他団体との連携

・園路沿いの池の泥上げ ・共同観察会の開催 ・森づくり協議会に参加

#### 2.調 査 事 業

a) エゾリス生息マップの作成(帯広市内)継続事業 シマリス情報の収集・道路横断の実態・緑ヶ丘公園の生息マップ作成

b) 帯広市委託調査(帯広の森の小動物の生息調査)

\*エゾリス分布調査 調査月日: 「エゾリス・センサス」

5月21日(日) 5月28日(日)6:30集合

10月22日(日) 10月28日(土)6:30集合

集合場所:帯広の森・はぐくーむ 駐車場

- \*チョウセンゴヨウ松の結実調査 帯広の森内(秋の調査時10月22日)
- \*エゾリスの冬の巣調査 10月22日(日) エゾリス·センサス終了後 場所:帯広の森 昭和 年植樹区
- c)表土まきだし調査(帯広の森) 手入れ
- d)FGF 助成事業
  - ・エリア1の里山林再生と利用・エリア2とエリア3の自然林の再生
  - •活動拠点整備事業 ・効果的な普及手法の検討
- 3. (公財) 日本自然保護協会主催の [モニタリングサイト1000] 事業 帯広の森内で、鳥類調査、植物調査、チョウ類調査、哺乳類、カエル 調査データを活用して、帯広の森管理プラン作成に利用する
- 4. エゾリスの会広報事業
  - a) 会報の発行 4回発行 (カラー化試行中) b) エゾリスの会リーフレット作成
- 5. 里山をつくろうプロジェクト
  - ・2017年6月から月1回 ・間伐、草刈り等
- 6. 創立35周年記念誌の発行(資料収集)1986年(S61年4月)発足
- 7. 「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰 2017 年6月10日(土) 金沢市

# 「帯広の森」の川の中を歩こう!

(かんさつ会お知らせ)

まちのすぐ横に暮らす生きものたちと出会うかんさ つ会です。

「帯広の森」の中を流れる第二柏林台川の中を歩いて 魚や水の中に暮らす昆虫たちをジックリのぞいてみよう!

日 時 6月25日(日)9:00~12:00 (小雨決行)

場 所 カラオケ道場チュンチュン南東向かい 「帯広の森」駐車場集合(西 20 条南 6 丁目) 定 員 先着 15 名

服 装 川の中を歩きます。長靴、胴長、濡れても良い運動靴でお越しください

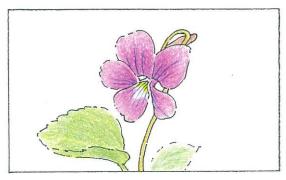
料 金 100円(傷害保険料)

申込み締切 6月22日(木)

お問い合わせ・申込 0155-33-4223(三日市) ※申込み時には参加者全員の氏名、年齢、電話番号をお知らせください。













by 仁義なき71号

#### エゾスの会 会報 113号 発記:2017.527

発行 エゾリスの会(事務局)

〒080-0027 帯広市西 17条南 3 丁目 6-14

**☎**0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp ホームページ http://ezori3.wix.com/ezori 非公式ブログ http://d.hatena.ne.jp/noken/

#### 編集後記

新緑の美しい季節となりました。森の中の小鳥のさえずり、キツツキのドラミング、エゾハルゼミの陽気な鳴き声、川のせせらぎ、様々な音が心をゆるっとさせてくれます。忙しい毎日の中でも、ちょっとだけ足を止めて自然の音に耳を傾け、人間社会の煩わしさを忘れ、自分の中に眠る野生を呼び醒ませたい。社会に飼い慣らされないよう生きたいものです。(さか)



### 会 報 第114 号《印刷は1P.4Pカラー》

エゾリスの会は、1986 年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

## 第 28 回全国「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞

報告者:三日市則昭

全国「みどりの愛護」のつどいの 式典が6月10日金沢市の本多の 森ホールで行われました。本多の 森ホールは、石川県が〈兼六園周 辺文化の森〉ゾーンとして保全と 整備をしている地域内に位置して います。式典には皇太子さまが臨 席され、1,500人の関係者が出席 する中、全国133団体と共に国 土交通大臣から功労者表彰を受け ました。

式典前には郷土芸能のアトラク ション等が行われ、式典に入り皇

太子様からのお言葉があり、その後大臣より功労者の代表に表彰状の授与が行われました。

式典終了後、隣接する本田の森公園で皇太子様、来賓の方々、都道府県の代表の功労者により記

念植樹が行われました。(私も北海道代表で「タブノキ」の植 樹を行いました)



全国「みどりの愛護」のつどいは、「みどりの日」制定の趣旨を踏まえ、都市緑化意識の高揚と緑豊かな住みよい環境づくりを推進し、緑を守り育てる国民運動を積極的に推進していくことを目的に1990(平成2)年より開催されている。

上記の趣旨に則り、花と緑の愛護に顕著な功績のあった 民間団体に対し、その功績をたたえ、緑化推進運動の模 範として「「みどりの愛護」功労者表彰が行われている。

## FGF 助成中間報告

1月に助成決定を受け事業を行っています。事業の概略の中間報告です!

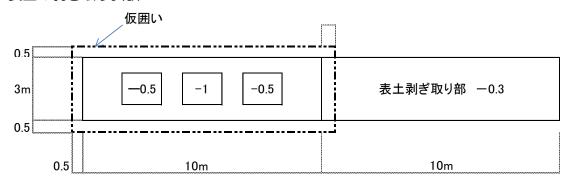
### 《エリア 1 の里山林の再生と利用》

エリア1のオープンスペースに長年に渡ってオオアワダチソウが繁茂し続けたため、他の植物の 実生がほとんど見られず、自然林に近い植生再生が遅れている。

#### • 事業内容

本事業では、オオアワダチソウの繁茂抑制を表土剥ぎ取りや地盤切り下げ、自生種の導入などを組合わせ、開放環境を森林環境への再生するための初期状況の実現を目指す。

### \*表土の剥ぎ取り試験



全体平面図

表土を剥ぎ取る深さは、0.3m、0.5m、1mの三段階で行った。

試験地完成☞

掘削中₽





### 《エリア2と3の自然林の再生》

エリア2と3は、植樹から出発し、自然の力で持続的に維持される地域本来の自然林に戻していく場として位置づけられる。隣接する残存自然林からの自然分散が期待でき、その再生過程のモニタリングは他の地区での自然林再生にとっても重要な手掛かりとなる。このことから本事業では、自然環境のモニタリング調査が基本となるが、森づくりとして従来行っている取り組みを記録して整理し、指標種を選定し再生への効果を検証する。

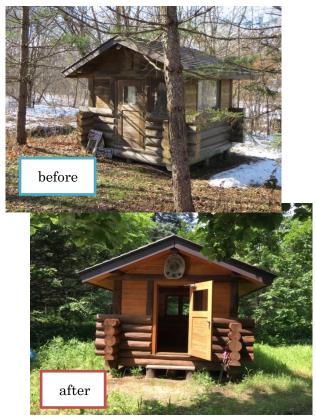
#### • 事業内容

- \*森林調査区(20m×20m)2カ所の毎末調査
- \*林床植生第二柏林台川右岸エリア3-エリア2の横断植生ラインの植生調査



### 《活動拠点整備事業》

1991年にFGFの助成を受けて観察小屋を設置し た会のシンボル的な小屋を、新たな活動地に移設し 森づくりの活動拠点として利用。







夏型のメスプラねるれば 作者よりおわび







by 元ポンドガールフI暑

ミーティング中

エルスの会 会報 114号 発田:2017901

発行 エゾリスの会(事務局)

〒080-0027 帯広市西 17条南 3 丁目 6-14 **2**0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.ip

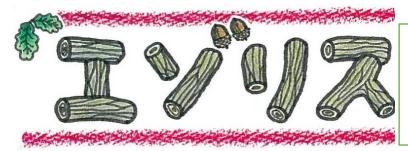
非公式ブログ http://d.hatena.ne.jp/noken/

### 編集後記

7月の猛暑が懐かしいくらい、涼しく 雨空の日が多かった8月。

調査活動にも支障をきたしました。こ れからの天気に期待したいと思いま す。明日天気にな~れ!

### 【会報115号】2017.12.01



エゾリスの会は、1986年に発足した環境系まちづくり団体で、野生小動物と人間とがより良く共存できる環境づくりを目指し、現在帯広の森で「里山づくり」、「動植物調査」、「観察会の実施」などの活動を行っています。

《印刷は、1P.6P カラー》

# ☆うっちーさんのエゾ/Jス観察ルポ⑩ アメリカ修業滞在記

~圧倒的な自然に挑む研究者たち編~

《北大 環境科学院 動物生態学研究室所属 内田健太》

久方ぶりの執筆になります。今年の秋もたっぷりリスと戯れております。

今回のコラムでは、アメリカ修行滞在記と題して、研究者修行で訪れたアメリカでの体験の一部を紹介いたします。

私は、今年の 7-8 月に野生動物・リス研究の大御所、アリゾナ大学 John Koprowski 博士の研究室に行ってきました。



滞在目的は、野生動物研究の最先端の現場を見学すると同時に、自身の研究がどこまで通用するかを見極めることでした。ここでは前者についてお話します。アメリカ滞在中最も印象的だったのは、 凄まじくダイナミックな自然とそれに挑む研究者たちの姿でした。メキシコと国境を接するアリゾ ナ州には、見渡す限りのサボテン と砂漠・荒野が広がっています。 そんな荒野には想像を絶するほど の多様な生物が暮らしていました。 中には、ジリスと呼ばれる地上で 暮らすリスたちもたくさんいまし た。さらに私を驚かせたのは、乾 燥した荒野の中に 2000m を超える 山々が点在し、そのピーク付近に は美しい針葉樹の森林が広がって いたことでした(図1)。40度を超 える灼熱砂漠から、美しい花や 木々に覆われる山まで一度に楽し めるダイナミックな自然を体感で きる場所でした。そして、周りを 砂漠に囲まれた 3000m を超える独 立峰の山々は、"Sky Island (空の 島)"と呼ばれています(図 2.)。 そんな、Sky Island の一つ Mt. Graham (3, 200m) に John の研究 室の対象種であるキタアメリカア カリス Tamiasciurus hudsonicus の亜種が生息しています(図3)。 彼らは、エゾリスよりも一回り小 さく目の周りが特長的な白いリン グで囲まれた愛らしいリスです。





巨大な Sky Island を舞台に、リスがどんな場所を使っているのかといった行動学の研究から外来種との競争関係の解明や生息地の保全を目指したテーマまで幅広い研究が展開されています。人為活動・山火事・気候変動といった大規模な環境変化に対する生物たちの応答を解明すべく、多様な視点で研究できるシステムでした。そして、大学から政府の研究者まで多くの研究者が参加して、山全体に生息するたくさんのリスたちに発信機を着けて、長期データを取り続けています。莫大な研究資金と人員を動員する、まさに人海戦術(John の研究室には Ford 社の怪物車 Excursion が 5 台もあるそうです・・・)。圧倒的な自然に対して、惜しみなくお金や人員を投資する北米の懐の深い社会システムが垣間見えました。こうした姿勢が、世界の野生動物研究を牽引しているのだなと、脱帽しました。しかし現在、アメリカの科学研究はトランプ政権樹立によりかつてない苦境に立たされています。米国の研究者たちは、自然だけでなく人間社会とも戦わなくいけない時代になっていました。さて、我が国はどうなっていくのでしょうか。。。

#### 『阿寒 前田一歩園の森』研修報告

報告者:三日市則昭

9月19日、「帯広の森づくり協議会」の一員として「阿寒前田一歩園の森」(以下、一歩園の森) を視察研修してきました。台風18号が日本列島を縦断し、前日には北海道の日本海側を通過し荒れた天気でしたが、当日は台風一過の良い天気となり参加者20名が帯広市役所からマイクロバスで出発しました。

今回の研修目的は、

① 森林管理について ②水環境の保全について ③エゾシカ対策について を主要テーマですと事務局からレジメを手渡されていますので気を引き締めて学ばなければ(②) との想いを胸に秘め車中で予習をしながら阿寒湖へ向かいました。





午前10時に前田一歩園 財団の事務所に到着し、財 団の酒井さんから一歩園の 森の概要のレクチャーを受 け、酒井さんの車の先導で 一歩園の森へ入っていきま した。

舗装道路から砂利道の公 道を通り、林道入口のゲート で一旦停止し、湖畔沿いの林 道を進み一歩園の森の深部 に分け入っていきます。

昨日まで雨が降っていたに







もかかわらず、小川の水の透明感にビックリ、倒木が森の中に溶け込み風景を創り針葉樹、広葉樹の森の心地よい視覚、何とも言えない安らぎの空間が広がっていました。

しかし、ところどころに黒い無機的な カバーが木にかけられていました。

これから研修する「エゾシカ対策の一環の「樹幹のネット巻き」です。一歩園の森では、昭和59年頃からエゾシカの生息数が急激に増え、それに伴い冬季間エサが無くなると樹木の外皮

(樹皮)を食べる等生態系に及ぼす影響が現れました。

財団では平成7年から専門家の協力 を得ながら対策を講じ、現在は「樹幹 のネット巻き」、「ビートパルプ給餌」、 「囲いワナによる生体捕獲」を実施し ています。

「ビートパルプ給餌」と「囲いワナによる生体捕獲」は相反する対策の様に見えますが、説明を聞いて納得しました。シカによる食害を防ぐには、森内の個体数の数を減すか、樹皮を食べさせないように他のエサ環境を作るか

が必要となります。シカの捕獲にはある一定 の広い面積が必要であり急激に減らすこと は至難の業です。それで林内が許容できる個 体数になるまで、許容量以上の鹿には給餌し て樹皮に手を(口かな)出さないようにさせ る。(なるほど)

森を守るためには、既成概念にとらわれず 色々な手法を検討し実践し、一歩園の森の保 全に努めていることがみて取れました。

水環境の保全については、河畔林の豊かなインベツ川に行くための林道が前日の雨で

路面状態が悪く、いくことが出来ず断念しました(残念)。

午後からは、阿寒湖の南側に位置する「**光の森**」を財団の山本さんに案内頂き散策しました。光 の森は三代目園主前田光子氏が愛した森であることから名前が付けられ、名前の通り光が織りなす 陰影が異空間へと導いてくれます。





この森は、野生動物等の共生を 実践しており、樹木に絡まって いるブドウやコクワのツルを 切るようなことはなく、ヒグマ が秋にはこの実を食べに樹木 に登ったりするそうです。また、 風倒木も搬出することなき のままにしておき、鳥等の食し出 しています。

また、森内には、源泉が湧き出ている「ボッケ」と呼ばれる湧出孔があり、近づくと硫化水素のにおいがしてきます。(山本さんに硫黄のにおいがしますねと言いましたら、これは硫化水素の臭いだよ。硫黄は無臭ですよ。と教えていただきました。(66歳まで知らなかった)

原始の森を目指している森の多様性を見ることができますので、ぜひ、一度訪れ、散策してほしいですね。この森に入るためには、前田一歩園財団認定ガイド「一歩園森の案内人」と一緒に入らなければなりませんので、「NPO 法人阿寒観光協会」等に問い合わせてください。(ガ

### イド料は有料です)

でも、この森を訪れていなくても、もしかしたら、この風景を見ている方もいると思いますよ。 実は、ここで渡辺謙主演の映画「許されざる者」、綾瀬はるか主演の NHK テレビドラマ「精霊の守 り人」の撮影したところです。

ここは、国立公園内ですので、自然に手を加えて撮影したわけではありませんので、撮影の場所に 立つと映像の雰囲気を主人公になった気分で味わえると思います。

前田一歩園財団がこれだけの自然を維持していけるのは阿寒湖を訪れる観光客の皆さんの力が重

要です。なぜかというと、阿寒湖畔のホテルや土産物店の建物は、財団から土地を借りて建て営業しています。また、リラックスできる温泉の湯も財団が所有しています。これらの資金を自然に還元しているのです。

「**阿寒湖に行って自然保護」**だれでも阿寒湖畔周 辺の自然を守ることができますよ。



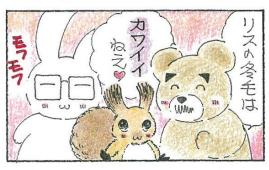
冬至祭開催: 12月23日(土)午後2時から「観察小屋(帯広の森活動地内)」で冬至祭を行います。 飲食物は持ち寄りで楽しく行います。防寒対策は 十分にしてください。詳しくは、事務局まで。

#### エゾルスの会 会報115号

発行: 2017. 12. 1 発行 エゾリスの会(事務局) 〒080-0027 帯広市西 17条南 3 丁目 6-14 ☎0155-33-4223

E-mail mikka-1@octv.ne.jp 非公式プログ http://d.hatena.ne.jp/noken/







ヤフオク!」に来山盆でました……



人気だってっていす……は



by 秘技「リス学」継承着 478号

#### 編集後記

雪が降ると寒さが一段と体にまとわりつき、火のそばから離れられなくなります。体の芯から温めるために帯広の森で活動しましょう。n.m